

学発番号: 学18-050  
事業名: 表在超音波検査研修会  
日時: 平成31年2月21日(木) 18:30~20:30  
場所: 京都保健衛生専門学校 視聴覚室  
主 題1: 「表在超音波検査 ~頸部領域~」  
講 師1: 古屋 華乙璃 技師(京都第二赤十字病院)  
主 題2: 「表在超音波検査 ~皮膚領域~」  
講 師2: 西海 朋子 技師(滋賀県立総合病院)  
講 師4: 北野 智美 技師(京都府立医科大学附属病院)  
参加数: 総数:40名(京臨技会員:36名、日臨技会員:3名)  
報告者: 塚口 なつみ(京都第二赤十字病院)

以下、講演内容など

今回の表在超音波検査研修会では、頸部領域と皮膚領域に分けて各講師に講義して頂いた。内容は、解剖学をはじめ、見落としのない走査方法、各症例における所見の特徴や検査時の注意すべき点など、広範囲に渡った。

頸部領域では、甲状腺を主とした講義が行われた。

バセドウ病や無痛性甲状腺炎などのびまん性甲状腺腫、悪性リンパ腫、乳頭癌などの悪性腫瘍、腺腫様甲状腺腫などの良性腫瘍が症例として挙げられ、それぞれの疾患の症状やエコー上でどのような像として描出されるかを詳しく説明して頂いた。

良性か悪性かを見分けるポイントを表でまとめたものやフローチャートを用いての解説、また、症例画像も多くあり、視覚的に捉えやすく分かりやすい講義であった。

皮膚領域では、皮膚の構造がエコー像でどのように映るかといった基本的な内容から始まり、脂肪腫、粉瘤、ガングリオン、グロームス腫瘍、皮膚癌などの症例をもとにそれぞれの所見の特徴が解説された。

腫瘍の大きさ、位置、血流の有無、腫瘍と他組織との連続性など、検査の進め方や検査時に確認すべきポイントを含めた内容の講義であった。

各講義を受け、今まであやふやだった所見の捉え方を改めて学ぶとともに、未経験の症例に触れることで知識を向上する良い機会となった。

また、検査時に見落としやすい部分を知ること、今後の検査において見落としのない走査を意識的に行うきっかけにもなったと思う。